

【目的】 在宅家族介護者のストレスに関する研究は最近増加しているが、ホームヘルパーのストレスに関する実証研究はほとんど手がつけられていない。ホームヘルプサービスは在宅福祉の3本柱とされ、在宅福祉の中核を担うものである。本研究はホームヘルパーの心理的ストレスを測定するための尺度を構成すると共に、それらに関連する諸要因を明らかにすることを目的とする。

【方法】 本研究で分析するデータは、長野県内のホームヘルパー479名を対象とした調査から得られたものである。調査は長野県ホームヘルパー研修大会において配票、回収した。ホームヘルパーのストレスを測定するための主要な要因として、ストレッサー、リソース、価値意識、コーピング、心理的ストレス反応の5つを用いた。

【結果】 12のストレッサー項目のうち、「よくあった」「ときどきあった」という回答が多いのは「仕事が多くて時間に追われる」(59.5%)、「対象者が無気力な態度を示した」(40.3%)、「休暇がとりにくかった」(39.8%)などであるのに対して、「対象者の家族と感情的な行き違いがあった」のは8.2%にすぎなかった。ストレッサー項目の主成分分析を行い3因子(ケースに関わる因子、上司・同僚に関する因子、勤務に関する因子)の時、最適解を得た。ホームヘルパーの心理的ストレス反応に有意な影響を及ぼしていたのはストレッサーの3因子、リソースのうち個人的側面では健康、家族の理解、職場の組織的側面では欠勤時における代替ヘルパーの体制が整っていることであった。また、ヘルパーの仕事を積極的に受けとめているほど心理的なストレスは小さかった。